

「専攻医 1 年目を振り返って」

津久見中央病院 内科 後藤 亮

私は令和 2 年度に大分大学医学部を卒業し、現在医師 3 年目となります。大分市出身、大分豊府高等学校を卒業し、同大学に入学。在学中は管弦楽団に所属しておりトロンボーンを吹いておりました。新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた 2020 年に鶴見病院で初期研修医として研修させていただき、去年は大学病院にて研修いたしました。一人の患者さんに対してより良い医療を提供するため専門家の分野を超えた可能性を一つ一つ熟考することにとっても興味を持ち、数多くの分野に関わり、実際に治療に介入できる科である総合診療科に入局をさせていただきました。

現在は専攻医 1 年目として堀之内 登先生、内科の竹下 泰先生を始め多くの先生方にご指導いただきながら多忙な日々を送っております。初めて主治医として治療の中心に立たせて頂いており、未熟なもので初めて経験する疾患も多く毎日新たな発見と反省を繰り返しながらこの 1 年を過ごしてまいりました。津久見中央病院での研修は竹下先生を始めとした、指導体制が確立しており、困ったときや、相談しなくても困ってそうなきはいつでもサポートしていただけることが非常に心強かったです。非常に多彩な症例を経験できるため、初めての症例を経験することは日常茶飯事です。ガイドラインに載っていない難しい症例や BPS モデルの社会的、心理学的な問題が課題になることも多く、非常に悩む事が多かったですがそんなときにすぐ相談できる体制があるのはとても良かったと感じております。研修病院で悩まれている、後期研修医の先生方には是非津久見中央病院で研修していただければと思います。

また重症患者を受け入れることもしばしばあり、地域で一つしかない総合病院として持つ力をすべて使って対応しております。元気になり退院する姿を見たり、残念ながら亡くなってしまったときでも家族にとっても感謝されたりするのを見て地域医療に貢献できていることを実感しております。また保戸島診療所の診察や、訪問診療にも同行させていただき地域の診療を全身で感じることができ非常に良い研修ができております。また外科の先生方の御協力のもとサブスペシャリティとしての内視鏡の研修も行うことができ、様々な場面において成長できた 1 年でした。また病院外では論文投稿や学会での症例報告もさせていただき貴重な経験をさせていただきました。

また経験を積んできましたが、まだまだ不安の多い中当直業務をさせていただいております。そんな中全力でサポートしてくださった、指導医の先生方、外来看護師や放射線科技師、検査技師、ME さんにはとても感謝しております。

医師 3 年目としてまだまだ未熟ではありますが、1 日 1 日を大切に、先輩方から一つでも多くのことを学び、今年 1 年間の経験を明日の地域医療に繋げられるよう精一杯努力してまいります。これからも診療の場面等で何かとお世話になるとは思いますがその際は何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2023 年 3 月 28 日